

天明まちづくりセンターだより

発行/熊本市南区天明まちづくりセンター 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町 2035 TEL223-1117 FAX223-3275

生き物調査結果・ホタル成育発表会

12月2日、天明公民館にて天明環境保全隊主催の発表会がありました。今年度の生き物調査は、力合西小・飽田南小・中緑小・銭塘小・奥古閑小・川口小から64名の児童が参加し、5～10月にかけて月1回水路や田んぼにいる生き物の調査を行いました。発表会では、スッポン、コウモリ、ウシガエル、アサギマダラ、メダカ、モクズガニ等珍しい生き物も報告されました。また、5年前から始めたホタル飼育は、現在8団体(5小中学校と3集落)となり、連携して取組みをされています。

発表会には110名を超える方が参加され、身近な環境を知る良い機会となりました。



天明文化協会 訪問発表会

11月18日、天寿園くじらホールにて天明文化協会主催の発表会がありました。今年もカラオケや詩吟、民謡、日舞、オカリナ、器楽などもりだくさんの演目の発表があり、会場は賑わっていました。



『ママにもできる防災～もしもに備えるいつも～』

12月8日、天明公民館にて天明地区子育て支援ネットワーク主催の子育て講演会が開催されました。今年度は“歌う防災士”柳原志保先生を講師に迎え、地震体験談や地震などの災害に対する心構えについての講話がありました。また、「新聞紙スリッパ、キッチンパーママスク」など災害時に役立つグッズ作り体験や「防災ゲーム・クロスロード」による防災シュミレーション体験がありました。



天明の歴史シリーズ10 緑川の話(前半)

第10弾「緑川の話(前半)」の紹介者は白河部健さんです。

「天明地域は、緑川の流出する土砂の沖積によりできた地域である」といっても過言ではない。その緑川の変遷について述べてみたい。

1 鎌倉時代の大河(緑川)

寒巖義尹禅師の支援者だった河尻泰明は、弘安5年に大慈寺敷地を寄進した。その寄進状に、「東は白河を限り、西は満善寺を限り西堀を通り大河(緑川)に至り、南は大河(緑川)に限り、北は満善寺を限り南堀を通り白河に至る。」とある。つまり、鎌倉時代、緑川は九州最大級の大河として位置付けられ、その大河に白河が合流していたことがわかる。

この白川については、寛永17年(1640)細川忠利が幕府の許可を得て、無田川をつくり、土砂が堆積していた白川跡を整備し、5万俵の年貢米を河尻から熊本城まで運んだという。さらに平成28年の熊本地震では、この白川跡が液状化現象を起こし、住宅や道路に多大の被害を与えた。

2 近世の緑川

(1)慶長の国絵図

江戸幕府は、慶長10年(1605)に各藩に国絵図の提出を求めた。この国絵図は、加藤清正が作成し、後で細川忠利に引き継がれる。

この国絵図の緑川を見ると、現在の緑川は大きく様変わりしているのがわかる。

- ・大慈寺上部で、加勢川が緑川に流れ込んでいた。
- ・緑川は大慈寺を過ぎたあたりから川尻米蔵のあたりへ大きく湾曲していた。

現在、中無田閘門の北側に加勢川の塘があるが、ここに「上緑川筋」や「緑川筋水受け塘」という小字が残っている。

- ・現在の平木橋付近ではさらに湾曲し、走潟が銭塘手永の範囲にあった。



保育園へ遊びにきませんか

下記の時間帯で保育園の園庭や、空いている保育室を開放しています。開放中は地区の主任児童委員さんがサポートに入りますので、園児が遊んでいる時間帯でも遊べます。保育園に入園されていない方は、保育園を体験できるよい機会です。お気軽にご利用ください。※ご希望の方には保育園の給食(子どものみ)用意可。(給食代200円要)

- 【対象】 未就園児と保護者
- 【参加方法】 希望の保育園に電話申し込み
- 【主催】 各保育園・天明地区主任児童委員

期日	時間	場所	電話番号
第1水曜	9:30	川口 保育園	223-2893
第2水曜		中緑 保育園	223-2380
第3火曜		奥古閑保育園	223-2613
第3水曜	11:00	銭塘 保育園	223-2247
第4水曜		海路口保育園	223-1300

天明地域人口・世帯数一覧表

※平成30年12月1日現在の住民基本台帳を基準とした参考数値です。

校区	世帯数	人口計	男	女
銭塘	856	2,226	1,061	1,165
奥古閑	1,204	3,123	1,487	1,636
川口	807	1,863	892	971
中緑	409	1,027	486	541
合計	3,276	8,239	3,926	4,313